



世界三大瀑布の一つ「ヴィクトリアの滝」とザンビア南部の 中心都市・リビングストーン

Livingstone Tourism Association

北米の「ナイアガラの滝」、南米の「イグアスの滝」と並び、世界三大瀑布の一つと称される「ヴィクトリアの滝」は、アフリカ南部の国・ザンビアとジンバブエの国境に位置します。1989年にザンビアとジンバブエ両国の世界自然遺産として登録されたこの滝は、ザンビア唯一の世界遺産です。このヴィクトリアの滝のザンビア側のゲートシティが「リビングストーン」。観光の首都と呼ばれるこの町には、ヴィクトリアの滝を始め多種多様なアクティビティがそろっています。



ザンビアについて



アフリカ南部に位置する「ザンビア共和国」は、日本の約2倍の面積を持つ内陸国です。1964年10月に独立した同国の人口は1,052万人(2014年・世銀調べ)、公用語は英語です。アフリカの中でも平和な国として知られています。首都 ルサカ(Lusaka)は政治・経済の中心地、リビングストーンは観光の首都(capital of tourism)と呼ばれ同国の観光の中心地です。日本人がザンビアという国を知るきっかけになった出来事の一つに、1964年に開催された東京オリンピックがあります。同国が正式に独立した日がオリンピック開催期間中の10月24日であったことから、ザンビアだけが開会式と閉会式の行進の際に掲げる国旗が異なっていたというエピソードが残っています。

ヴィクトリアの滝の見どころ

「ヴィクトリアの滝」は、誰もが一度は訪れてみたい世界を代表する観光スポットですが、日本には現地の詳細な情報が少ないことやアクセスの問題もあり、まだまだ日本人旅行者は多くありません。19世紀半ばにイギリスの宣教師・探検家により発見され、当時の英国・ヴィクトリア女王の名前にちなんで「ヴィクトリアの滝」と名づけられたこの滝の大きさは、幅約1,700m、最大落差約110m。轟音と共に大量の水が流れ落ちる光景は圧巻です。現地の人々はこの滝のことを「雷鳴の轟く煙」を意味する「モシ・オア・ツニャ」(Mosi-oa-Tunya)の名で呼んでいます。「ヴィクトリアの滝」見学の際は、ザンビア、ジンバブエ両国側から滝全体の見学がおすすめです。場所・時期により多様な表情を見せるこの滝一番のおすすめは、水量の多い時期(2~8月初旬)の満月の夜とその前後の日のみ滝に虹がかかる「ルナレインボー」(Luna rainbow)。この滝の幻想的な様子をご覧ください。



ヴィクトリアの滝周辺で行われるおすすめアクティビティ

世界各国から多くの旅行者が訪れるヴィクトリアの滝周辺では、バンジージャンプやジップラインなどのスリリングなものから、豪華列車やクルーズなど、ゆったり時間を過ごすものまで、数々のアクティビティがお楽しみいただけます。

豪華蒸気機関車「ロイヤルリビングストーン エクスプレス」(Royal Livingstone Express)

リビングストンの町中とヴィクトリアの滝までの約8.5kmを結ぶ観光用の豪華蒸気機関車です。汽車は、ヴィクトリア橋のほぼ中央に引かれているザンビアとジンバブエの国境線のある場所まで時速20~30キロのゆっくりとしたスピードでヴィクトリア橋に向かいます。到着後、ヴィクトリア橋で30~40分程停車いたします。この間にヴィクトリアの滝をご堪能ください。その後、汽車は国立公園に向かって進み、到着後、お楽しみの一つ「フレンチ・ディナー」が始まります。フランス料理に舌鼓を打った後、汽車は出発地点のリビングストーンに戻ります。所要時間は3時間30分、11~翌3月の夏期シーズンは17:00発~20:30着、4~10月の冬期シーズンは16:30発~20:00着です。



ヘリコプターでのヴィクトリアの滝上空からの眺望

上空から見るヴィクトリアの滝もおすすです。ヘリコプターでの遊覧飛行は滝に関連するアクティビティの中でも料金が高い方ですが、上空からの眺めは一見の価値あります。遊覧飛行の時間は短いもので10～15分、長いもので25～30分。見どころは色々ありますが、滝の落下地点が何万年もの長い年月を経て移動してきた様子は必見です。またヴィクトリアの滝を含む周辺地域一帯は国立公園になっており、ゾウやキリン、カバ、サイなどの野生動物が数多く生息しています。遊覧飛行中、滝の上空を飛行するだけでなく、パイロットが公園に生息する野生動物の位置を教えてくれたりするのも嬉しいところです。写真を撮りやすいように旋回してくれるので、望遠レンズ付きのカメラがあれば野生動物の撮影も可能です。



ザンベジ川のサンセットクルーズ

高いところが苦手な方には、サンセットクルーズがおすすめです。南部アフリカ有数の大河・ザンベジ川を大型船でゆったりと進みます。川岸に水を飲みに来るゾウ、獲物を狙うワニ、川をのんびり泳ぐカバなど、この地域に生息する野生動物の姿を船上から見られるかもしれません。そして雄大なザンベジ川に沈む夕日の美しさは、言葉を失うほどの深い感動を与えてくれることでしょう。



観光の拠点「リビングストーン」

ヴィクトリアの滝のザンビア側のゲートシティ「リビングストーン」は、ザンビアが独立する以前に旧イギリス保護領・北ローデシアの首都として栄えた町で、現在はザンビアの観光の首都 (capital of tourism) として多くの旅行者が訪れています。英国の保護下にあったことから、一部の建物には当時の面影が今も残り、町は他のアフリカの都市とは一風異なる趣があります。

目抜き通りは常に清掃され、町全体で世界各国から旅行者を受け入れる態勢が整っています。町も荒れた様子はなく治安も良好です。そして、少し町を離れると豊かな大自然が広がる場所もリビングストーンならではの。ヴィクトリアの滝へ向かう際に通る「モシ・オア・ツニヤ大通り」(Mosi-Oa-Tunya) でも運がよければ、途中、野生動物に遭遇することも。



おすすめのイベント

◎LICAF(リカフ) … 2016年は3月25～27日開催
リビングストーンでも最大級の国際文化芸術祭。
メインイベントは国内約10の地域+近隣諸国からのダンスグループによるストリートフェスティバル。

◎ヴィクトリアの滝・マラソン … 2016年は7月03日開催
レースは、ジンバブエ・ヴィクトリアフォールズの町中をスタート後、ヴィクトリアの滝にかかる大橋を渡ってザンビアに入り、その後再びジンバブエ・ヴィクトリアフォールズの町中を走りゴールとなります。
当日はフルマラソンの他、ハーフマラソン、ファンラン(7.5km)も開催されます。
詳細: <http://www.vicfallsmarathon.com/> (英語)

リビングストーンでの注意事項等

〔治安〕

リビングストーンは観光の首都と呼ばれるだけあり、首都・ルサカに比べると治安は良好ですが、現地では外国にいるということを忘れず、注意を払った行動を。

〔市内散策時〕

リビングストーン市内には信号が1ヵ所しかなく、ドライバーの交通マナーも日本に比べると劣ります。横断歩道を歩いていても車が止まってくれるとは限りませんので、市内散策中も車には十分な注意が必要です。

〔タクシー〕

ブルーの車体に紫のストライプが特徴です(ブルー以外の車体もあります)。屋根の右上に「TAXI」と書かれた黄色い行灯(あんどん)がありますが、取り付け位置はバラバラで、中には行灯の付いていない(外れている)タクシーもあります。タクシーにメーターはありませんので、乗車前には必ず料金確認をお忘れなく。なおタクシー乗車時には、小銭をご用意ください。もし小銭を持っていない場合には、乗車前にお釣りの有無を確認されることをおすすめいたします。その他、リビングストーンには相乗り制のタクシーもあります。

タクシー料金のめやす (2016年2月現在)

リビングストーン市内間の移動 … K40～K50程度
リビングストーン市内～空港間 … K50程度
リビングストーン市内～ヴィクトリアの滝間 … K50程度
※K(1クワッチャ)≒10円
※時間帯により料金が変動する場合があります。

